図書館年報を分析する③　＜表Ｃ＞登録者数

指定管理以降、矛盾だらけ
一体どれを信じればいいの

＜表Ｃ＞　図書館利用登録者の推移　各種統計の比較					
年　　度	平成 25(2013)	平成 26(2014)	平成 27(2015)	平成 28(2016)	平成 29(2017)
市民合計	40,523	40,082	39,777	39,451	38,817
年齢区分別合計	(集計無し)	＊43,199	＊43,123	＊42,842	＊43,784
地区別合計	40,523	40,251	40,016	39,706	39,064
阪神広域・その他	2,841	2,948 3,033	3,097 3,264	3,133 3,100	4,706 4,685
個人合計	43,364	＊43,115	＊43,041	42,551	43,502
団体・相互	87	84	72	88	99
総　合　計	43,451	＊43,199	＊43,123 43,113	＊42,639 42,837	＊41,855 43,770
人　　口	114,642	114,289	113,541	113,309	11,3038
登　録　率	35.3	○35.1 35.3	35.0	34.8	34.6 ○34.3
新規登録者数	3,357	3,994	3,550	3,362	4,710

＜注＞●「市民合計」と「年齢区分別合計」「地区別合計」は本来同一の数値にならなければならない。
●「市民合計」と「阪神広域・その他」の和が個人合計である。●「総合計」は「個人合計」と「団体・相互」の和である。
●「登録率」は「市民合計」を「人口」で除したものである。●黄色の帯をかぶせた数値は、同一年報の他の表に表記された当該項目の数値である。つまり、同じ項目なのに異なった複数の数値が存在している。●上記のように、ピンクの帯の数値は同一年度では同じにならなければならないが、すべて異なっている。●「＊」の数値は互いに矛盾している。

三田市の図書館を考える市民の会は、図書館年報のデータの誤りについて、その都度指摘してきました。しかし余りに間違いが多いため、指定管理者制度が導入された平成２６年度（２０１４年度）以降４年間の図書館年報を比較しながら、全体的なチェック作業を試みました。その結果、幾つもの疑問点が見つかりました。素人のチェック作業ですから、あるいは理解不足や勘違いがあるかもしれません。しかし、どう考えてもどうしてこんなことになるの、という数値の矛盾がたくさん見つかりました。順次述べていきますが、今回は図書館の「利用登録者」と「登録率」の数値をとりあげます。

ところで、三田市立図書館の指定管理者制度は今年４月から２期目を迎えることになります。昨年後半から企業の選定が進められた結果、応募企業はＴＲＣ１社のみで、審査の結果、同社が引き続きまた５年間、図書館の運営を担うことになりました。市議会も圧倒的多数で賛成しました。しかし、そのＴＲＣがこの４年間公表してきた年報のいい加減さは驚くばかりです。

昨年 11 月に一括して質問、回答はまだ来ない

市民の会は昨年１１月１２日に、今回取り上げる「登録者数」、次回以降に取り上げる「貸出数」などの年報データの疑問点について、一括して三田市文化スポーツ課と平岡図書館長宛に質問書を提出しています。しかし、３か月たった現在も、まだ回答はありません。わたしたちは、こうした「誤りではないか」と思われるデータの問題については、三田市・図書館の回答を検討したうえでホームページに掲載するつもりでいました。わたしたちの指摘が、あるいは的外れである可能性もあると考えたからです。しかし、ここまで待たされているところを見ると、わたしたちの指摘は間違っていないと考えて差支えなさそうです。そこで、回答を待たずに掲載することにしました。

本論に入ります。

「利用登録者」「登録率」データの基礎となるのは、２９年度版図書館年報を例にとれば、２７ページに掲載されている「６.統計」の「（４）登録状況①利用登録者数(全館)」の数値です。この表のすぐ近くには「（３）利用状況③三田市立図書館の図書館指標の推移」の表があり、ここにも「登録率」が掲載されています。前ページに掲載した**＜表Ｃ＞**は、市民の会が各年度の図書館年報諸表のデータを突き合わせるため、該当する数値を抽出して独自に作成したものです。

＜表Ｃ＞の「市民合計」は三田市民の登録者数を表わします。また「年齢区分別合計」「地区別合計(市内)」は、それぞれ市民登録者を年齢区分別、地区別に集計したものの合計です。したがって、その値は「市民合計」と同じ数値にならなければなりません。また「個人合計」は、「市民合計」と「阪神広域・その他」の数値を合算したもので、「個人登録者の総数」を表します。「総合計」は「個人合計」と「団体・相互」の数値を合算したもので、個人と団体などを合わせた「総登録数」です。そして「登録率」は「市民合計」を「人口」で割ったもので、「三田市民の図書館登録率」を表わしています。――以上の前提（認識）でデータを見て行きましょう。

直営最後の年、平成２５年度版の図書館年報では、「登録者数」に関するすべての数値が矛盾なく整合しています。「市民合計」と「地区別合計」の数はピタリ同数です（この年は「年齢区分別」の表無し)。この数値に「阪神広域・その他」の数値を足したものが「個人合計」の数値になっていますし、「個人合計」に「団体相互」の数値を足したものが「総合計」になっていて、どこにも計算の齟齬はありません。「登録率」の３５．３％も正確です。

同じになるべき三つの数値が４年連続で全部違う

ところが、指定管理者制度に移行してＴＲＣが図書館年報を作るようになった平成２６年度版では、早くもおかしなことが起きています。

前述のように、「市民合計」と「年齢区分別合計」「地区別合計」は本来、同一の数値にならなければなりません。ところが三つの数値がすべて違っているのです（**＜表Ｃ＞**ピンク表示)。こんなことがなぜ起こるのでしょうか。もっと変なのは、「市民合計」を３００

０人以上も上回っている「年齢区分別合計」が、「総合計」と同じ数値になっていることです。総合計は「個人合計」に「団体・相互」の登録数を加えた数値ですから、「個人登録者だけの合計」より少なくなることは絶対にありません。この年の「団体・相互」の登録数は８４団体ですから、同数になることも絶対にないのです。このように歴然とした誤りが、臆面もなく年報に掲載されたのです。

35.1%対 35.3% 表が違えば登録率も異なる

さらに、「阪神広域・その他」の登録者数は、年報の中にトータル数が表示されている表と、市町別内訳だけが表示されている表がありますが、合計数を算出して双方を比べると、**＜表Ｃ＞**の黄色表示のように微妙に異なっています。登録率も「（４）①利用登録者数(全館)」と「（３）③三田市立図書館の図書館指標の推移」の二つの表では、それぞれ３５．１％、３５．３％と０．２％の差があります（**＜表Ｃ＞**グレー表示)。この二つの表は年報の同一ページのすぐそばに掲載されていて、ちょっと注意すれば「変だ」と気付くはずなのです。それなのに誰もチェックできず、矛盾したまま公表されました。

一体どちらが正しいのでしょうか。

指定管理２年目の平成２７年度版も同様です。この年も同一であるべき三つの数値はすべて異なります（**＜表Ｃ＞**ピンク表示)。また前年度同様、「年齢区分別合計」の数値は個人合計」を上回り、「総合計」と同じ数値になっています。さらに、「総合計」の数値自体が２種類掲載されるようになりました（**＜表Ｃ＞**赤表示)。「阪神広域・その他」の数値が２種類あるのも前年度と同じです。異常事態は“進化”を続けています。

総合計が「年齢区分別合計」より少ない?!

平成２８年度版年報ではさらに異常事態が進行しました。「市民合計」とその内訳項目の数値三つが全て違うのは前の２年度と同じです。その上、「年齢区分別合計」の数値がついに「総合計」を上回ってしまいました。「総合計」に２種類の数値が示されているのは前年度と同様ですが、その多い方は**「４２，８３７人」**になっています。「年齢区分別合計」は**「４２，８４２人」**ですから、こちらの方がわずか５人ですが上回っています。つまり、二つある「総合計」のどちらをとっても、「年齢区分別合計」よりも少ないのです。こんなことは絶対にあり得ないことです。「阪神広域・その他」の数値はこの年度も２種類ありました。

2 種類の登録率 2 年ぶりに復活、差は 0.3%

そして、平成２９年度版年報。三つの数値はやはりすべて違っています。**＜表Ｃ＞**ピンク表示の通りです。「年齢区分別合計」の数値は「市民合計」より５千人近くも多くなって、差をどんどん広げています。そして、「総合計」を上回っているのも前年度と同じです。さらにこの年は、３年ぶりに二つの「登録率」が復活しました。３４．６％と３４．３％が隣り合わせの二つの表に、どちらも“胸を張って”記されています。その差は０．３％。データの数値がこれだけ混乱していると、どれが正しいのかわたしたちには判断しかねますが、

登録率は「○」印をつけた方が正しいのではないかと推測しています。

４年間誰も気づかない 職員の能力に疑念

いずれにしろ、４年間に渡っておかしな数値が年報を飾っているのに、作っている当事者・ＴＲＣも、監督すべき三田市文化スポーツ課も全く気付かなかったのでしょうか。それとも気づいていながらスルーしたのでしょうか。わたしたちにしても、単発的におかしな点を指摘してきたものの、４年分を纏めてみてそのあまりの杜撰さに驚いた、というのが実情です。

ＴＲＣが図書館年報作成するようになってから、年報の完成が大幅に遅れるようになりました。年度末の３月末日に当年度のデータが締め切られるわけですが、直営時代には夏ごろには年報が公開されていました。それが、２６年度版の公表は確か越年したという記憶がありますし、以後も早くて秋口の公開ということになってしまいました。年報の作成は、コンピューターに蓄積された毎日のデータを年度末に締め切って集計し、定められた方法と手順で編集するのだと考えますが、直営時よりも長い時間をかけているのに、なぜこんなに間違いや矛盾点がゾロゾロ出てくるのでしょうか。作成方式を変えたのでしょうか。それとも、定められた方法・手順通りにできないほどＴＲＣ社員の知識・スキルが劣っているのでしょうか。わたしたちはＴＲＣ社員の図書館スタッフとしての能力に、かねて疑念を抱いていましたがそれが証明された形です。また、このように歴然とした矛盾を見抜けない、文化スポーツ課長をはじめ市職員の能力にも大きな疑問符が付きます。

間違いを認めた回答そのものが、また間違っていた

因みに、平成２９年度版年報の「①利用登録者(全館)」と「③地区別登録者数」総合計の齟齬については、年報が公開された直後の昨年９月７日と２９日に二度、図書館に質問書を出しました。その最終回答を１０月２７日付で受け取りました。その中で平岡館長は一部について間違いを認めました。しかし、なんとその回答自体が、またもや間違っていたのです。お粗末としか言いようがありません。

回答はこう述べています。

＜①利用登録者数(全館)の総合計に関しては、４１，８５５人の表示になっております。ご指摘の通り表示に不備があり、正しくは４３，７８４人となります。＞＜地区別登録者数の総合計に関して、４３，７７０人の表示になっております。ご指摘の通り表示に不備があり、正しくは４３，７８４人となります。＞(下の回答文参照)

「利用登録者数(全館)」の「総合計」は、すべての「個人登録者」に「団体・相互」を加えて算出します。一方、ここでいう「地区別登録者数の総合計」は三田市民と三田市以外の「個人登録者数」の合計です。「団体・相互」は加算されていません。それなのに何故、この二つの数値が４３，７８４人と同数になるのでしょうか。「団体・相互」登録数が「０」でない限りこんなことはあり得ません。計算そのものが破たんしています。図書館長ともあろう人物が、統計そのものの意味をまったく理解していないのではないか、とさえ疑われます。

また、数値の違いを「誤差」と表現し、その理由を**＜図書館システムの利用者登録区分に一部加算漏れが有り＞＜地区区分に一部加算漏れが有り＞**としています。システムの欠陥なのか、作業者の計算ミスなのか、いわゆる「加算漏れ」の原因がさっぱり分かりません。小学生でもわかることですが、これは「誤差」ではありません。どちらかの数値が間

平成 30 年 10 月 27 日

三田市の図書館を考える市民の会 御中

三田市立図書館
館長　平岡　一仁

平成２９年９月２９日付け「三田市の図書館を考える市民の会です。」のご回答

時下、益々ご清栄のこととお喜び申しあげます。
平成３０年９月２９日付けのご質問「三田市の図書館を考える市民の会です。」のご回答をいたしますので、ご確認をお願い致します。

①利用登録者数（全館）の総合計に関して、41,855 人の表示になっております。
ご指摘の通り表示に不備が有り、正しくは 43,784 人となります。
誤差の理由として、先に案内しました通り、図書館システムの利用者登録区分に一部加算漏れが有りました。また、表示されている数値の 41,855 人は、不備表示となります。

③地区別登録者数の総合計に関して、43,770 人の表示になっております。
ご指摘の通り表示に不備が有り、正しくは 43,784 人となります。
誤差の理由として、地区区分に一部加算漏れが有りました。表示されている数値の 43,770 人は、加算漏れの数値をそのまま表示した不備表示となります。

不備表示に関し改めてお詫び申し上げると共に、修正に関してＷｅｂ版の掲載は準備でき次第掲載致しますので、よろしくご理解をお願い致します。

以上

違っているか、もしかすると両方の数値とも「誤り」なのかもしれないのです。ＴＲＣは原因の究明ができているのでしょうか。全体像をつかめないまま、当面を糊塗するその場しのぎの回答のように思えます。例によって再発防止策には一言も触れていませんが、原因が分からなければ再発防止策を立てられないのは当然です。

さらに、**＜修正に関してＷｅｂ版の掲載は準備でき次第掲載致しますので、よろしくご理解をお願い致します。＞**とあります。この文章はどうでしょうか。**＜Ｗｅｂ版の掲載は準備でき次第掲載いたします＞**――小学生でもこんな文章を書いたら先生に直されます。「知の拠点」を預かる人物がこんな文章しか書けないとは驚くばかりです。

３か月たってもＷｅｂ版は未修正のまま

まだあります。回答文(前ページ)をご覧ください。表題が「**平成２９年**」となっていま

す。本文の「**平成３０年**」が正しいことは誰にでもわかります。こんな明らかな間違いにさえ気づかず回答を送ってくるのです。それに相変わらず、「不備」という用語を使っています。「不備」については以前にもコメントしましたので簡単に述べますが、要は「間違い」「誤り」ではなく、「誤差」としてうやむやにしたいのでしょう。しかし、「不備」を使うことによって、その意図とは逆に、そもそも図書館の事務体制がまったく整っていない、機能していないと“自供”することになってしまいました。

因みに「**準備でき次第掲載致します**」とされた「**Ｗｅｂ版の掲載**」は２月１０日に確認しましたが、未だに修正されていません。この回答の**「利用登録者数(全館)の総合計」**と**「地区別登録者数の総合計」**の数値だけがおかしいのではなく、当該表のほとんどの数値がおかしいのです。１、２か所の修正ではことは済まないはずです。「準備」が整うまで一体どれだけ時間がかかるのでしょう。この回答から、もう３か月以上が過ぎています。

市は「完成品」を受け取っているので責任なし？

一方、三田市からの回答の趣旨は次のようなものでした。

＜図書館年報は指定管理者が作成しており三田市は完成品を受け取っている。間違いがあればその都度修正させる＞。間違いについて三田市は一切関知しない、無関係だという強弁です。年報をチェックする仕組みそのものが無い、さらに出来上がった年報を読んでさえいないのではないか、とわたしたちは疑っています。三田市は毎年、ＴＲＣの図書館運営に高い評価を与えてきました。一体どこをどう評価しているのでしょうか。そして、こんなにお粗末なＴＲＣがまた５年間、三田市立図書館の運営を任されるのです。行政の監視役である市議会議員の皆さんは、図書館にまったく関心がないのでしょうか。市議会は昨年の１２月定例会で、図書館運営を引き続きＴＲＣに委ねる議案を１６対４の多数で可決しました。わたしたちは空恐ろしく思っています。

三田市自らの責任については稿を改めて述べたいと思います。また、市議会で行われた賛成討論、反対討論についても分析したいと考えています。